

2022年7月31日発行

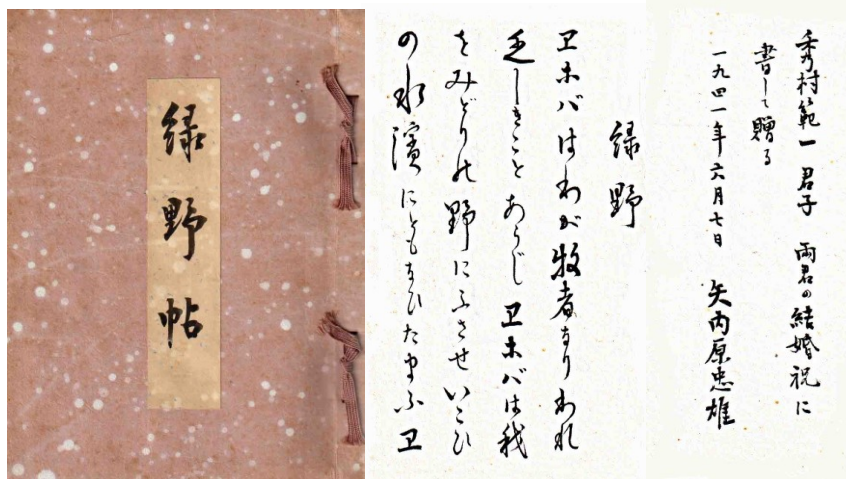
愛は決して滅びません

秀村 弦一郎

最初に今井館を訪れたのは大学生になった4月の日曜日で、矢内原忠雄先生の出エジプト記講義を聴きました。厳粛な雰囲気には圧倒されたことを覚えています。そして今井館に通い始めましたが、講義の内容はよく解らないまま、夏にお休みになり、クリスマスに先生が召されたのでした。

大学入学の準備に上京した折に矢内原先生のお宅にご挨拶にあがりました。応接間で随分待たされて、出てこられた先生は体調が悪い、ということをお話になりました。既に病が進んでおられたのでしょう。そして帰宅して間もなく両親に宛て、私に今井館集会に出るように、との手紙が来ました。後に知ったことですが、先生の集会出席には「嘉信」誌を2年以上購読することが条件で、私に許可を下されたのは特例だったのです。ご自身の先が長くないことを察知されて、若者に福音を聴かせておこうとお考え下さったのでしょう。先生の深いお祈りと愛があったことを思います。

実は先生のお祈りと愛は、私が母の胎内に形作られる前に遡ります。私の先祖は飯塚の神社の神主で、三男の祖父は経済界で働きましたが敬虔な神道信者でした。それで、キリスト者の祖母の影響でキリスト者になった父の結婚は難渋しました。クリスチャン女性と結婚したい父の希望が通らないのです。散々苦労を重ねた挙句落ち着いたのが、祖母の提案で矢内原先生に結婚相手をお任せする、という方法でした。東大教授ほどの人物ならそれで良からう、と祖父が折れたのです。矢内原先生は東大を追われてご自宅に若者を集めて開いておられた集会の中から母を選んで、福岡に送って下さったのでした。先生はその



錢に筆を揮って56頁もの聖句集(緑野帖=写真参照)をプレゼントして下さいました。この結婚のために先生がどれだけ深く祈られたことか、行間に襟を正されるものを感じます。先生は出張の折に拙宅に泊って下さったり、子供の私にまで絵葉書を下さったりしました。先生のご著書には両親はもとより私もどれだけ学ばせていただいたか分かりません。先生が召されて日曜日に空いていた今井館で「子ども会」がもたれるようになり、私の子供たちも通わせていただきました。御国で先生にお会いすることになったら、感謝は言い尽くせません。そして、来し方を省みると、矢内原先生を初めとしてどんなに多くの人々に愛を戴き祈られてきたことか、受けし恵みの数々を思うと同時に、その陰に潜む私自身の罪に向き合わせられます。

「十字架につけられ給いしままなるイエス・キリスト(ガラ3:1)」に縋るしかありません。そして終わりの日に愛なる神が万物を完成して下さいとの約束が最大の希望です。次のパウロの言葉がその根拠を示していると思います。

“愛は決して滅びません。”(Iコリ13:8)

(福岡聖書研究会)

# 目 次

表紙・巻頭言	
目次・内村鑑三の言葉	
表紙について・発行趣旨……………2	第34回無教会全国集会2022・ キリスト教独立伝道会のお知らせ……………9
新理事長挨拶……………3	各地からの報告・ 定期集会・特別集会のお知らせ……………10
内村鑑三研究セミナー報告……………4	
『教友』の性質について……………5	事務局便り……………13
学校・学寮だより……………6	維持会員募集のお知らせ・編集後記……………14

## 内村鑑三の言葉

### 国際聯盟

名は美である、理論として之を嘆称せざる者はない、然れども果して実現するや其れが問題である、(中略)人は完全を求めて達し得ない、世界は一家と成らんと欲して成り得ない、何故か、聖書は断案を下して言ふ「罪、人の衷に宿れば也」と、(中略)実にバベルの塔の建築を以て始まりし人類合同一致の計画は尽く失敗に終わった、而して其理由は明白である、平和の基を置ずして平和を実現せんとしたからである、

(中略)国際聯盟にして実に此目的を達せんと欲する者ならばそは外交的条約に非ずして信仰的一致でなくてはならない、即ち其会議は祈禱と各国の今日まで犯せるすべての罪の懺悔とを以て始まるべき者でなくてはならない

(選者注:上記は、国際聯盟発足前年の1919年、『聖書之研究』224号に載ったものである。漢字のルビは省いた。『内村鑑三全集』24巻、岩波書店、1982年、489-91頁)。

### ○表紙について

『今井館ニュース』第53号巻頭言は、無教会キリスト教徒三代目に当たる秀村弦一郎さんが、恩師矢内原忠雄によってご両親が引き合わされ、そのご結婚に当たって矢内原自筆の聖句集「緑野帖」をお祝いとして贈られたことをお書きくださった。秀村さんが師の愛と祈りの中で生まれ、また育まれてきた子どもであったことを記された。

(C.Y.)

### 『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三(無教会の提唱者)及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする(定款第3条)。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする(定款第5条3項)。